

Rinnai[®] システムキッチン用[ビルトインタイプ] ガスクックトップ[®] 設置工事説明書

型 式	型式の呼び	トッププレート の幅	備 考
RB38W6K8SWR	RB38W6KSR	60	水無し両面焼タイプ

◆工事される方へのお願い

- この機器を安全に正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みになって指定された工事を行ってください。
- 設置工事が終わったら **7** 設置工事後の点検確認 のチェックリストに基づいて、必ず再確認してください。

製 造 者

リンナイ株式会社

本 社 名古屋市中川区福住町2番26号 電話 052(361)8211(代) 〒454-0802

	ページ
1 安全に正しく設置工事していただくために	2～4
2 寸法図	5
3 同梱部品と設置工事後不要となる部品の確認	6
4 ガス配管工事・ガス配管接続工事	7～8
5 コンロの単独設置	9～13
6 コンロとオープンのセットでの設置	14～18
7 設置工事後の点検確認	19
8 試点火および試運転	19



1 安全に正しく設置工事していただくために

機器を安全に正しく設置工事していただくためや、設置工事業者や使用者への危害や財産への損害を未然に防止するためにこの説明書では、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

 警告	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示について次のような意味があります。



特に注意していただきたいこと、安全のために必ずお守りください

警告

- 設置工事は必ず、この「設置工事説明書」と「ガス機器の設置基準および実務指針」（一般財団法人日本ガス機器検査協会刊）に従う**

変則的な設置工事をすると事故や火災の原因となります。


確認
- この機器を安全に正しくご使用いただくために、この「設置工事説明書」をよく読み、指定された工事を行う**


確認
- ガス配管接続には専門の資格・技術が必要です**

金属管や金属可とう管などによる機器へのガス配管接続工事・取りはずし工事は必ず有資格者が行ってください。


確認



注意

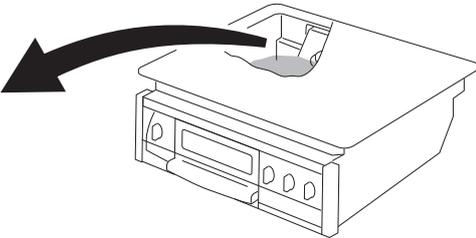
- 設置する機器が使用するガスの種類（ガスグループ）に適合していることを銘板で確認する**

合っていない場合そのまま使用すると火災や不完全燃焼により、一酸化炭素中毒になったり、爆発着火でやけどしたりすることがあります。また故障の原因にもなります。銘板は機器の本体内部左後方に張ってあります。


ガスの確認

〈例〉銘板（12A・13Aの場合）

型式の呼び		12A・13A
○○○○○○○	都市ガス	
12A用	13A用	
ガス消費量	ガス消費量	
製造年月および製造番号		RN



- 絶対に改造・分解は行わない**

設置工事で必要なところ以外は絶対に改造・分解は行わないでください。一酸化炭素中毒のおそれがあります。また、火災の原因になるおそれがあります。


分解禁止


- この機器は一般家庭用です**

業務用として使用しないでください。機器の寿命が極端に短くなります。


禁止

⚠️注意

■設置するときは可燃物との距離を確実に離す

- 火災予防条例で定められています。必ず守ってください。

距離が近いと火災の原因になります。また可燃性の壁にステンレス板などを、直接取り付けでご使用になっても、熱伝導で長年の間に可燃物が炭化し火災になることがあります。

- 周囲に可燃物（木製の壁、棚など）のある場合は次のようにしてください。

トッププレートより上の側面は15cm以上、後面は5cm以上*、上部はトッププレート上面より80cm以上離して設置します。

- 可燃性の壁（ステンレス板などを張り付けた可燃性の壁も含む）から側面は15cm以上、後面は5cm以上*、また、上部はトッププレート上面から80cm以上離して設置できない場合は壁面に別売の防熱板を取り付けてから設置します。調理台・流し台の側面などが可燃性で機器のトッププレートより高い場合も、流し台側面を保護してください。

- ガス機器防火性能評定試験基準の変更に伴い、可燃物からの後方離隔距離が製造年月によって異なります。

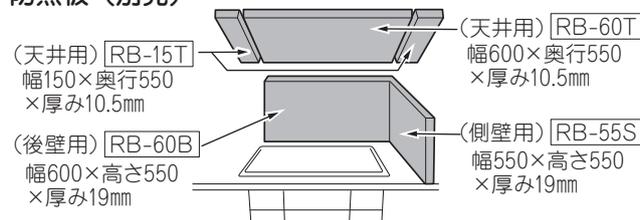
製造年月は銘板に記載してあります。

〈例〉09.04-000001（□：製造年月）

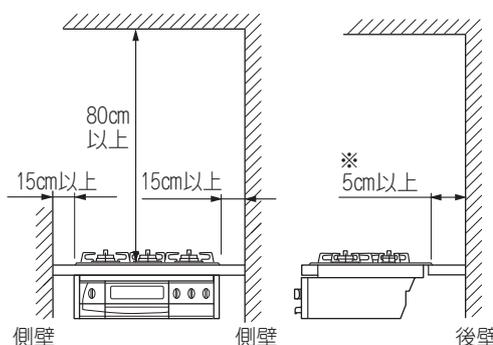
※製造年月09.03以前は15cm以上になります。

- オープンとセットで設置する場合、オープンと同梱されている「設置工事説明書」を参照し、トッププレートから後面の可燃物との距離を確認し、コンロとオープン両方満足する距離を確保して、設置してください。

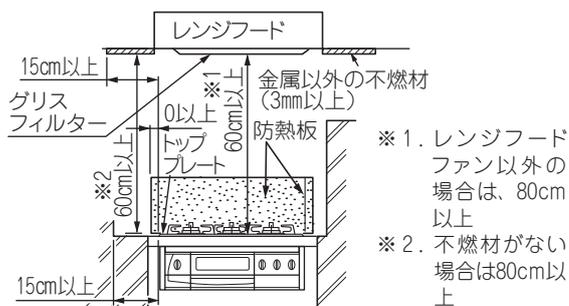
防熱板（別売）



・可燃物との距離を
確実にとる
(下図参照)
・守れない場合は別
売の防熱板を取り
付ける



※製造年月09.03以前は15cm以上



※防熱板については、お買い上げの販売店、またはもよりの当社事業所にお問い合わせください。

■設置するときは、下記の項目に注意してください

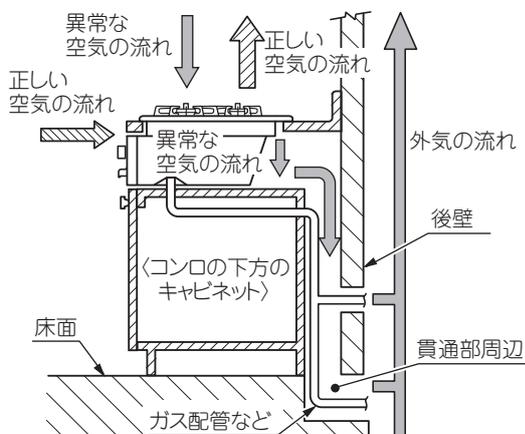
- 設置場所を決めるときは、お客様とよく相談する。
- 燃焼機器を設置する場所には、建築基準法や火災予防条例に定める防火措置を施す。
- この機器を設置される台所が、建築基準法に定める（内装制限を受ける調理室）に該当する場合は、台所全体についても内装材の制限を受けます。
- 水平で安定した場所に設置する。
- 指定の防熱板を必ず使用する。
- 車両・船舶には設置しない。
- 排気口をステンレスの水切りカバー（水返しカバー）などでふさがない。
- 十分に換気のできる場所に設置する。
- 水のかかるところには設置しない。
- 機器のまわりや上に、スプレー缶・プラスチック・油・紙類などを置かない。
- 棚の下など落下物の危険のあるところには設置しない。
- 湯沸器や樹脂製の照明器具の下へ設置しない。
- 強い風が吹き込む場所や機器本体後方から風が吹き込む場所には設置しない。
(点火しなかったり、温度センサーや立消え安全装置が正しく働かないことがあります)

⚠️注意

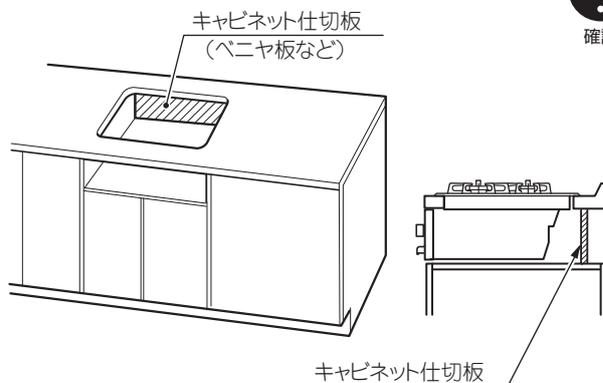
■キャビネットに背板があるか確認する

ベニヤ板などにより機器の後方をふさいでください。

キャビネットに背板がないと、ガス管などの配管貫通部で内気と外気がつながり、異常な空気の流れが起こるため、炎がもぐりこんだり、消火したり、不完全燃焼することがあります。



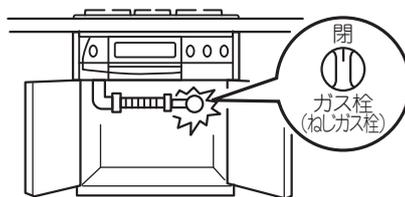
キャビネット仕切板設置例



■設置工事後、長期間使用しないときはガス栓（ねじガス栓）を閉める

ガス栓（ねじガス栓）は機器下方または、となりのキャビネット内にあります。

ガス事故防止のため必ず行ってください。

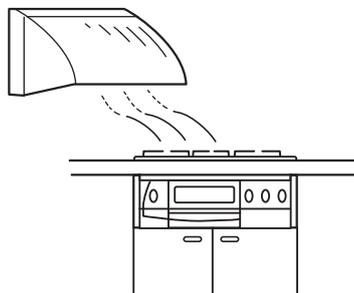


■十分な換気設備がある場所に設置する

この機器にはレンジフードファンが必要です。

設置するガス機器および同一室内に設置してある他の機器のガス消費量に対し、十分な換気設備がある場所に設置してください。

ただし、室内給気式（FE・CF）給湯器・ふろがまを使用している場合は、レンジフードファンを回すと排気ガスが逆流して一酸化炭素中毒の原因になるため、注意が必要です。



■機器設置の際には必ず手袋をする

けがの防止になります。



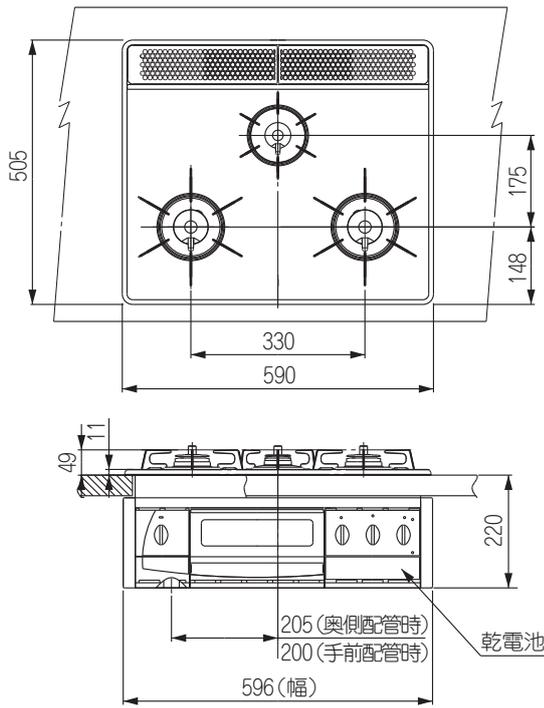
お願い

- 本体をタイルやモルタルで、塗り込まない。
- 耐久性などの点から、できるだけ湿気の少ないところに設置する。
- ワークトップ材は熱硬化性樹脂化粧板（JIS・K・6903）またはこれと同等以上の材料を使う。
- 表面がニス引きのものは変色するおそれがあるので使用しない。
- 本機器を大型ゴミなどで廃棄される場合は、必ず乾電池を取りはずしてください。そのままにしておきますと、思わぬ事故になります。

2 寸法図

1. 外形寸法図

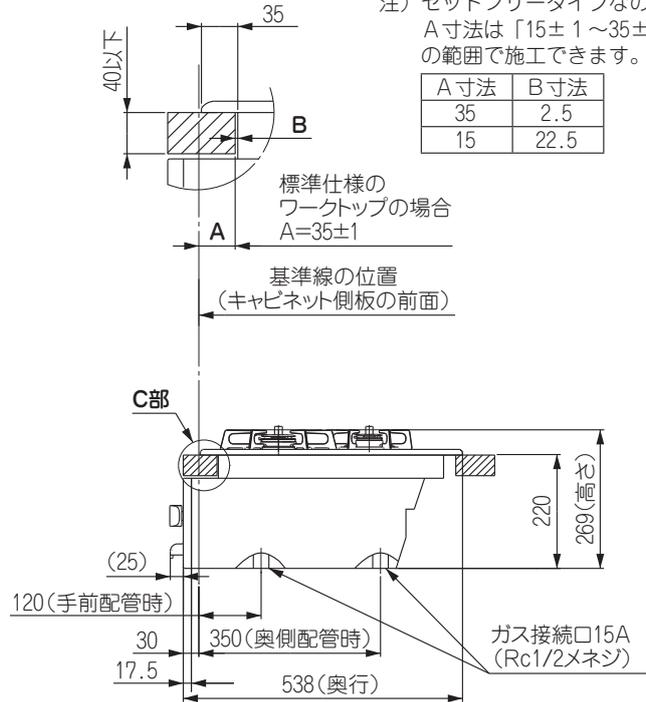
(単位：mm)



C部詳細

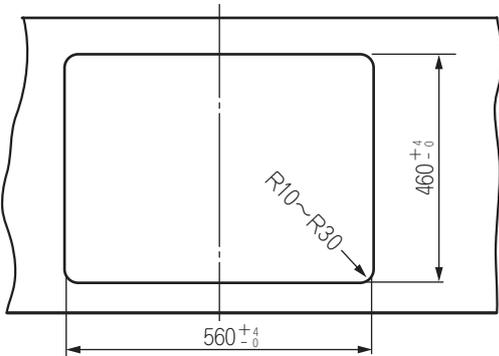
注) セットフリータイプなので
A寸法は「 $15 \pm 1 \sim 35 \pm 1$ 」
の範囲で施工できます。

A寸法	B寸法
35	2.5
15	22.5

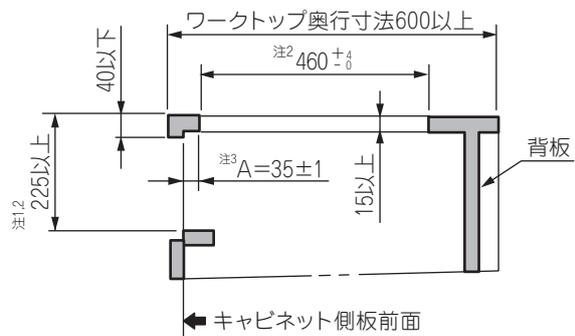
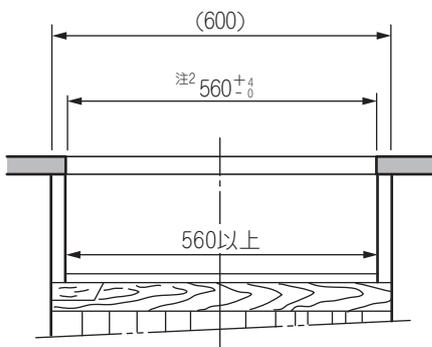


2. キッチン組み込み寸法図

(単位：mm)



〈ワークトップ切り込み寸法〉



注1 高さ寸法はワークトップ上面からの寸法です。

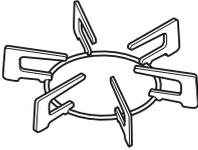
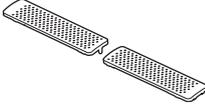
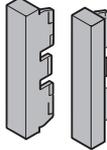
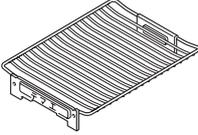
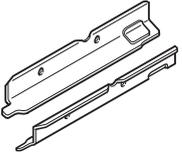
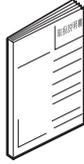
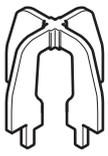
注2 ワークトップ開口寸法です。公差内になるよう加工してください。

注3 A寸法は15~35mmの範囲で設置できます。

3

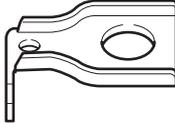
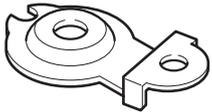
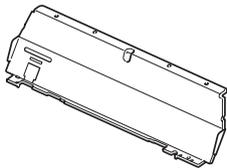
同梱部品と設置工事後不要となる部品の確認

① 部品の不足がないことを確認する。

部品名	ごとく(大) ×2	ごとく(小)	排気口カバー	エンドピース	魚とって
形状					
部品名	バーナーキャップ(大)	バーナーキャップ(標準)	バーナーキャップ(小)	グリル焼網	下火カバー
形状					(左)  (右)
部品名	取扱説明書	クックブック	乾電池(単1)	施工用キャップ(大) ×2	施工用キャップ(小)
形状					
				コンロバーナー本体にはまっています。 トッププレートセット後、不要になります。	

● 施工取っ手を持って、機器を段ボール箱より取り出してください。

② 設置工事の際、コンロから取りはずし不要となる部品を確認する。

	コンロの単独設置の場合	コンロとオープンのセットでの設置の場合		
部品名	底シール栓	接続用シール栓	シール栓押え板	接続口カバー
形状				
部品名	底シール栓押え板	本体カバー		
形状				

4 ガス配管工事・ガス配管接続工事

警告

■ガス配管接続には専門の資格・技術が必要です

接続工事・取りはずし工事は、必ず有資格者が行ってください。
有資格者がいない場合、ガス事業者の指定する工事店にご依頼ください。



- 接続の際はガスシール材を必ず使用する。
- ガス栓（ねじガス栓）を必ず取り付ける。
- 接続完了後、ガス漏れのないことを確認する。
- 取りはずした部品は必ず取り付ける。

1. ガス配管方法

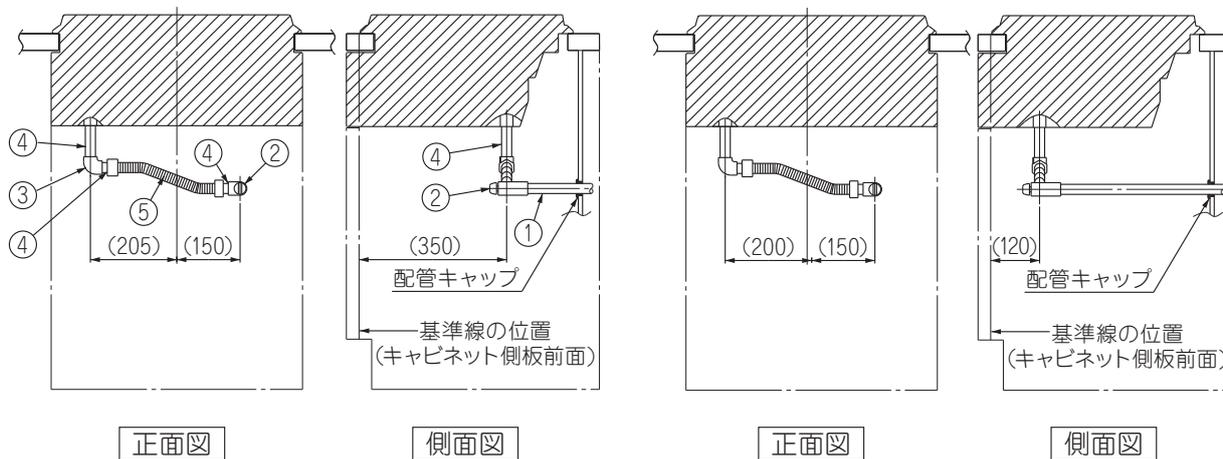
① 機器へのガス接続に必要な資格について

- 都市ガス用機器の場合、内管工事士・簡易内管施工士・ガス機器設置スペシャリスト・ガス可とう管接続工事監督者のいずれかの必要な資格を有する者が施工すること。
- LP ガス用機器の場合、液化石油ガス設備士の資格を有する者が施工すること。
(ガス機器設置スペシャリストは「燃焼器用ホース」の交換のみ施工可能)
なお、液化石油ガス設備工事を行う事業者は、事業所ごとに所在地を管轄する都道府県知事に「特定液化石油ガス設備工事事業開始届書」を提出する必要があります。

② コンロの配管方法

- ガス配管接続は金属可とう管または金属管接続してください。
- 配管周囲のすき間をなくすように、配管キャップなどを取り付けてください。すき間が大きいと消火したり、炎がもぐりこんだりして異常過熱の原因になります。

(単位：mm)



標準配管例（奥側配管時）

標準配管例（手前側配管時）

③ ビルトインコンロとビルトインオープンセットを設置する場合の配管方法

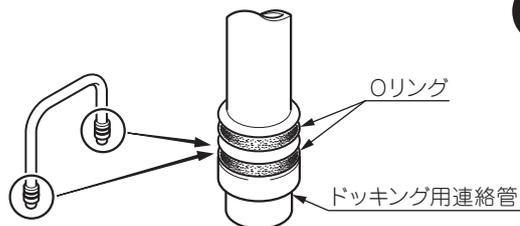
- ガス配管接続は金属可とう管または金属管接続してください。
- ガス配管接続と配管方法と電気配線工事は、ビルトインオープンに同梱の「設置工事説明書」を参照してください。対応オープンは、RBR-S14E-W となります。

No	配管仕様
①	ガス管 (R1/2)
②	ねじガス栓
③	エルボ (Rc1/2)
④	ニップル (R1/2)
⑤	金属可とう管

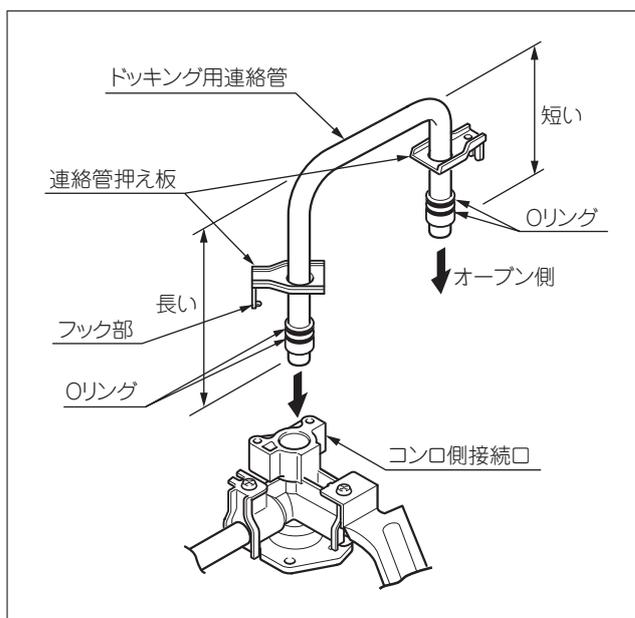
2. ビルトインコンロとビルトインオープンの接続方法

⚠️ 注意

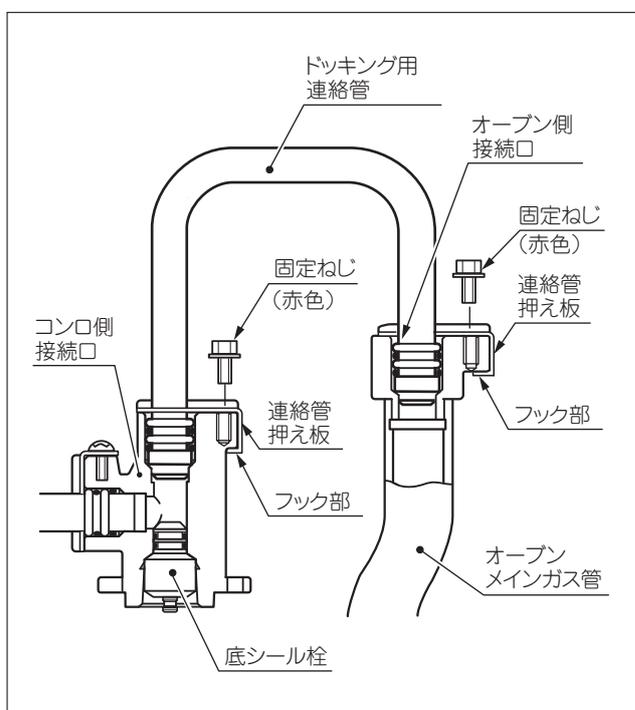
■ドッキング用連絡管にOリングが4個付いていることと、Oリングに傷がついていないことを確認する



- ① ドッキング用連絡管を取り付ける。
 - ビルトインオープンに同梱してあるドッキング用連絡管の長い方をコンロ側の接続口に、短い方をオープン側の接続口に接続します。
 - 確実に奥まで連絡管を押し込み、挿入する。



- ② 連絡管押え板を取り付ける。
 - ドッキング用連絡管に付いている連絡管押え板を回転させ、フック部がコンロ側接続口、オープン側接続口各々にかかるようにして、固定ねじ（赤色）1本で確実に取り付けてください。
 - 連絡管押え板が回転できずに、浮き上がる時は連絡管を確実に奥まで押し込んでください。



●詳細は **6** **コンロとオープンのセットでの設置** を参照ください。

5 コンロの単独設置

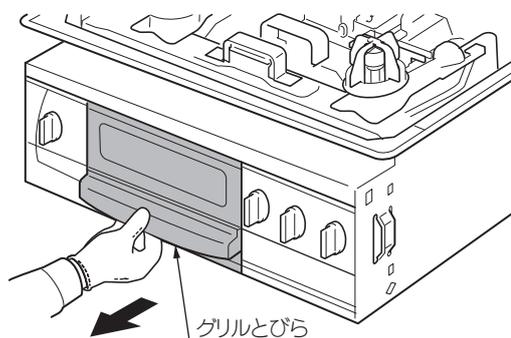
1. グリルとびらの取りはずし

- ① グリルとびらを取りはずす。 **図1**

お願い

- 開梱して機器を取り出す時や、ワークトップにはめ込む時は、必ず**施工取っ手**を持ってください。本体側部をもって機器を持ち上げると、本体側部が変形してトッププレートが浮き上がる原因となります。
- 施工用キャップ**をはずさないでください。トッププレートをセットする時に使用します。

図1



2. 単独設置用の底シール栓の取りはずし

- ① ガス接続口の底シール栓を取りはずす。

図2

- 底シール栓の取りはずしは、ガス配管接続を行う箇所のみ取りはずしてください。
- 本体底面左側にある固定ねじ(赤色)1本をはずし、底シール栓押え板をはずし、底シール栓をペンチなどではさんで、引き抜いてください。
- ペンチなど工具がない場合は、底シール栓の突起部に底シール栓押え板の切り欠き部を引っかけて、抜いてください。 **図3**
- 取りはずした底シール栓、底シール栓押え板は不要です。

図2

底シール栓を2箇所ともはずさない

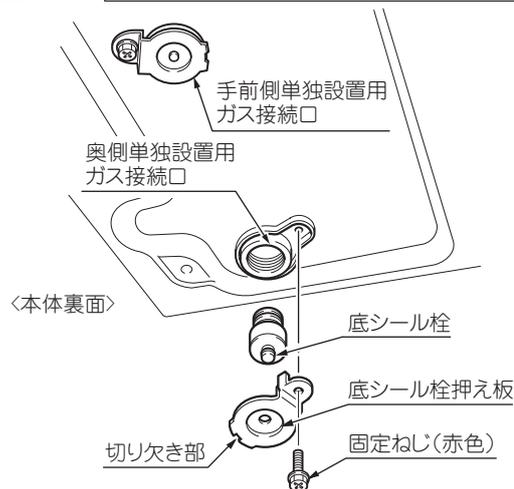
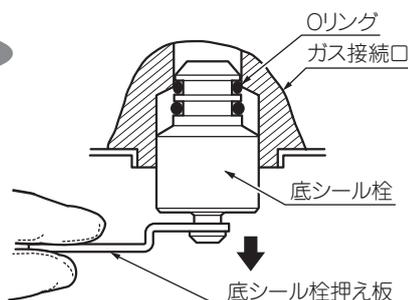


図3



⚠注意

■ビルトインオーブンを接続する場合は、底シール栓をはずさない

ガス漏れの原因になります。



■底シール栓を2箇所ともはずさない

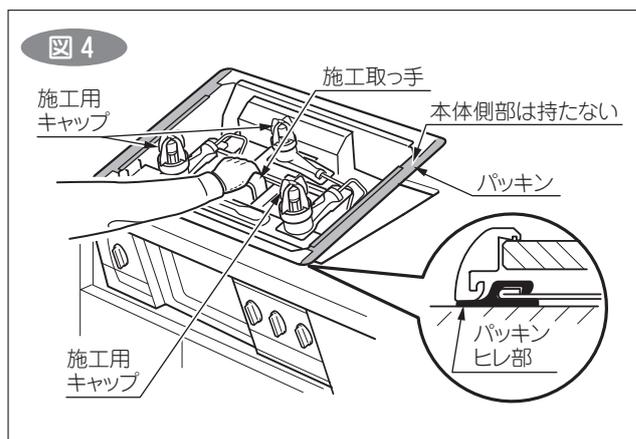
■機器設置とガス配管接続工事を同時に行わない場合は、機器設置時には底シール栓をはずさない

ガス漏れの原因になります。

3. コンロの設置

①コンロを組み込む。 図4

- ビルトインコンロの施工取っ手を持ち、前面を先に挿入して、前パネル・つまみなどに傷がつかないように注意しながら、コンロをはめ込みます。
- はめ込み時は必ず施工取っ手を持ってはめ込んでください。（本体側部を持たないでください）パーナー・パーナー支えなどの燃焼部品を持ってはめ込むと燃焼不良の原因になります。



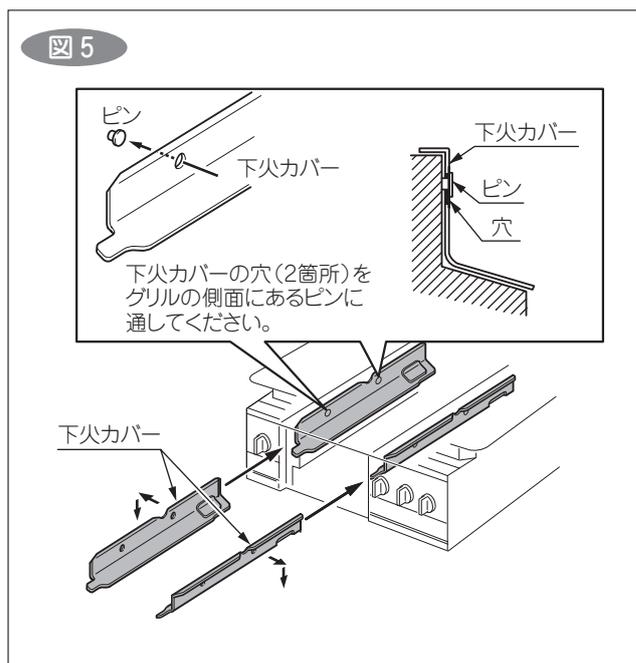
お願い

- 施工用キャップを装着したままワークトップにはめ込んでください。
 - パッキンが本体からはずれていないか確認してください。
 - 必ずパッキンのヒレ部が丸まっていないか確認してください。（特にコーナー部）丸まっている場合は、丸まりを直してください。
- ※機器の設置の際には必ず手袋をしてください。

4. 下火カバー・グリルとびら・エンドピースの取り付け

①下火カバーを取り付ける。 図5

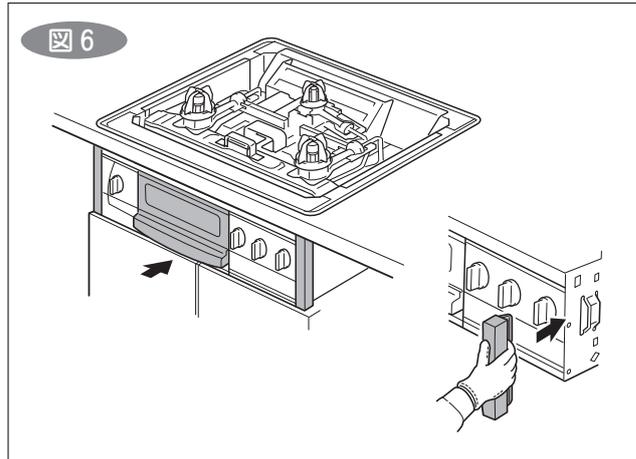
- 下火カバーの穴（2箇所）をグリルの側面にあるピンに通して下火カバーを取り付ける。



②グリルとびらとエンドピースを取り付ける。

図6

- エンドピースを取り付けた後、コンロ前面とキャビネットとびら前面が合うようにコンロの位置を調整してください。



5. 機器の固定

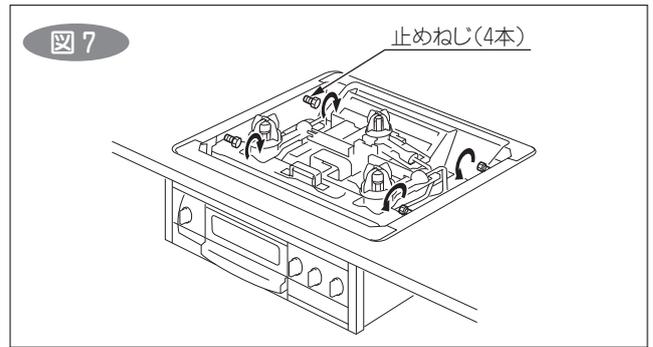
- ① コンロをワークトップに固定する。 **図7**
- 本体側面に付いている止めねじを回して、機器を動かない程度に固定してください。
 - 締め込みすぎると、ワークトップを壊したり、機器が変形したり、トッププレートが浮く原因になります。

〈使用工具〉

プラスドライバー、スパナ（呼び8）、ペンチ

- スパナがない場合は、ペンチ・プライヤー・ラジオペンチなどで止めねじの六角部をはさんで、ねじを回してください。

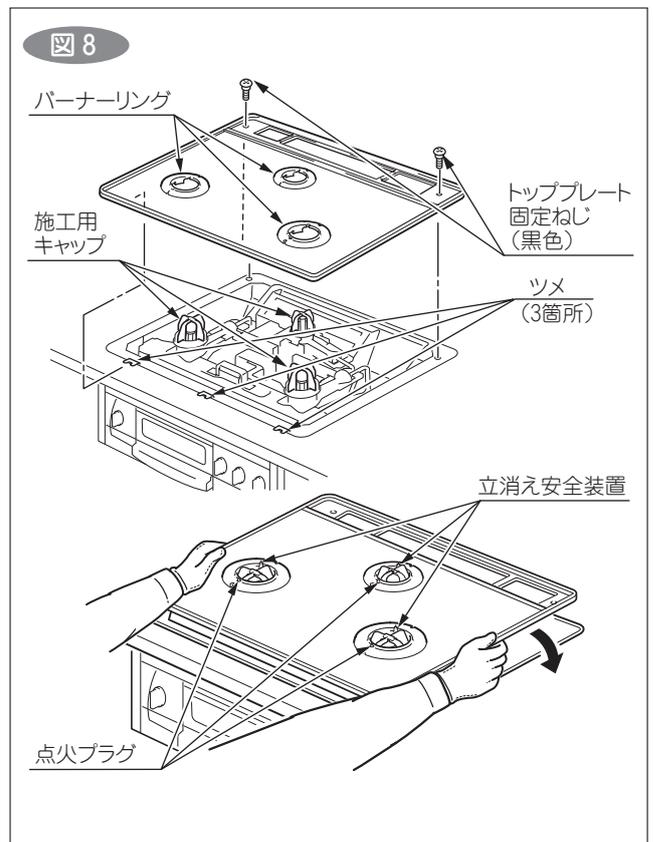
※工具を使用する際には、バーナーに傷をつけないようにしてください。



6. トッププレートをセットする

- ① 上部枠後部に止めてあるトッププレート固定ねじ（黒色2箇所）をはずす。（このねじは③で再度使用します） **図8**
- ② 施工用キャップをガイドにして、トッププレートをセットする。
- 点火プラグや立消え安全装置をバーナーリングの穴へ通すようにしながら、トッププレートをセットしてください。 **図8**
 - トッププレートを前に動かしてツメ（3箇所）に引っかける。 **図8**
 - トッププレートにツメが引っかからないときは、グリル前枠部分とワークトップをはさむようにして機器を少し（0.5mm程）持ち上げながらトッププレートを前に引くと引っかかります。 **図9**
- ※グリルバーナーには手を触れないでください。
- ※トッププレートの取り扱いには十分に注意してください。割れ欠けの原因になります。

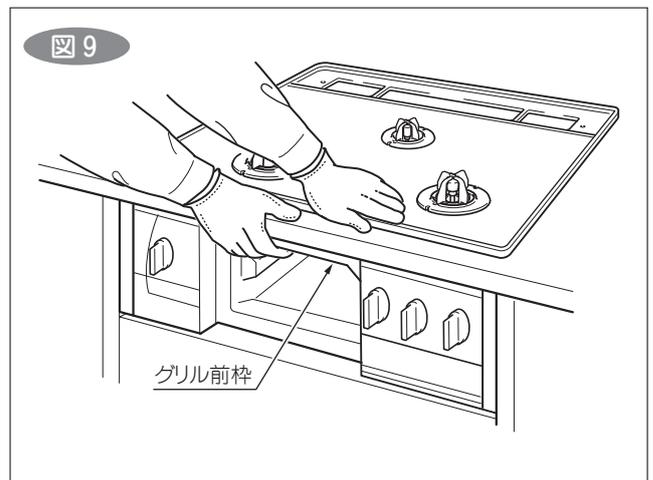
- ③ ①で取りはずしたトッププレート固定ねじを使用して、トッププレートを固定する。



お願い

- バーナーの塗装面を傷つけたり点火プラグを曲げたりしないよう注意してください。
- バーナーリングを持って運搬しないでください。
- バーナーリングに傷がつきますのでリング側を立てかけたり、床などに置いたりしないでください。

- ④ トッププレートセット後、施工用キャップを取りはずす。

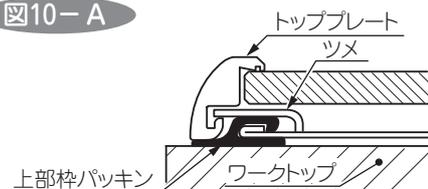


⚠️ 注意

■ トッププレートは確実に取り付ける

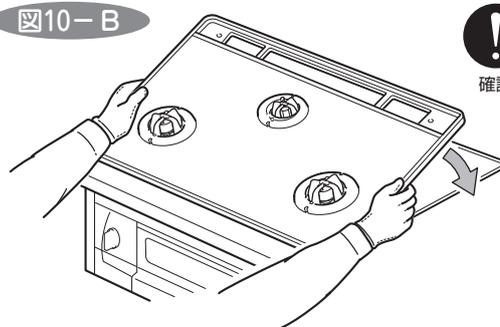
- トッププレート前端にツメ(3箇所)が必ず引っ掛かっていて浮きがないことを確認する。

図10-A



- ツメ(3箇所)に引っ掛かっていない場合はトッププレートをはずし、再度やり直してください。その場合、前端のツメに先に引っ掛けてトッププレートをセットしてください。

図10-B



ツメに引っ掛けて矢印方向に回転させてセットする。

■ トッププレートのセットは浮きがないように上部枠パッキンに確実にはめ込む

- セットがかたい場合は上部枠パッキンを本体側に押し込んでなじませてください。

■ 上部枠パッキンのヒレ部が丸まっていらないか必ず確認する

- ヒレ部が丸まっている場合は丸まりを直してください。

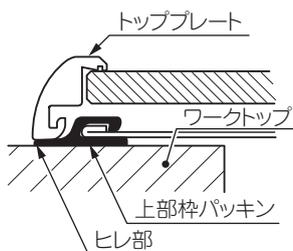
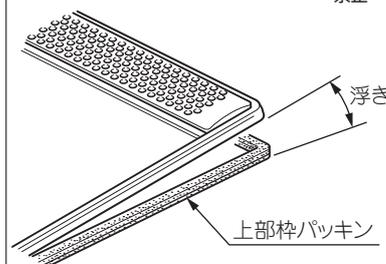


図11

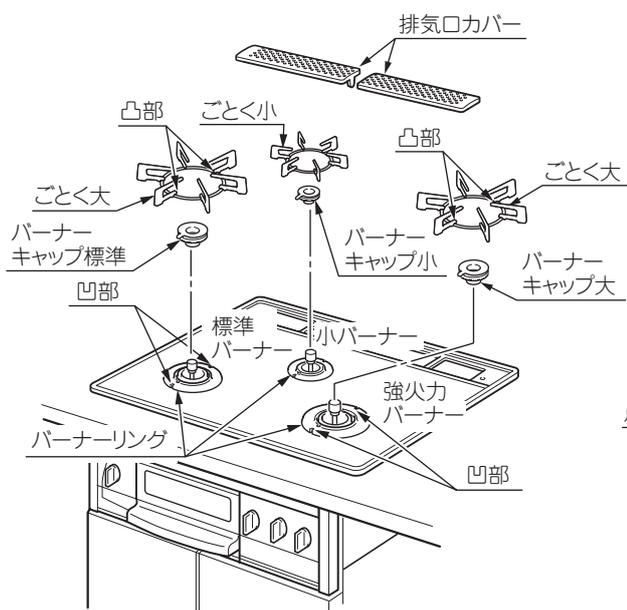


7. 部品の取り付け

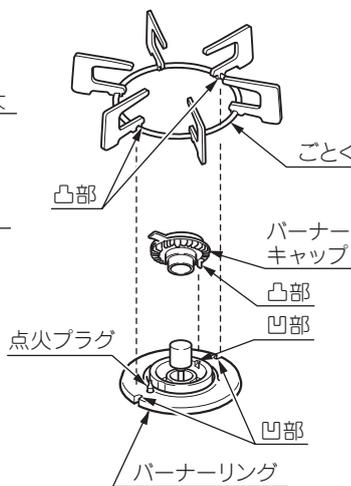
- 詳しくは、取扱説明書を参照してください。

- バーナーキャップ、ごとはくは、下図のように正しくセットしてください。

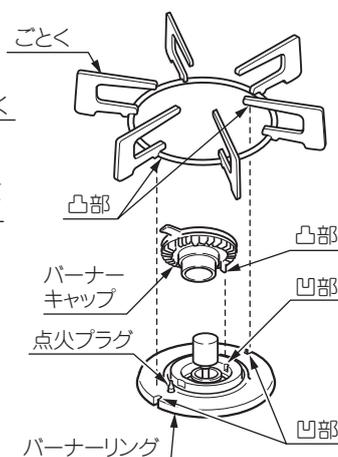
図12

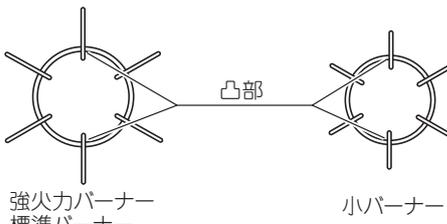


小バーナー



標準バーナー・強火力バーナー

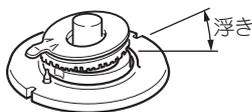


ごとく	バーナーキャップ
 <p>強火力バーナー 標準バーナー</p> <p>小バーナー</p> <p>凸部</p> <p>ごとく内側の凸部を前後にしてバーナーリングの凹部に入れて正しくセットしてください。</p>	 <p>凸部</p> <p>小バーナー 標準バーナー 強火力バーナー</p> <p>凸部を前にしてバーナー本体後側の凹部にバーナーキャップのピンを入れて正しくセットしてください。</p> <p>強火力バーナーのバーナーキャップには、Hの刻印が表示してあります。</p>

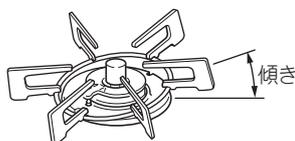
●バーナーキャップ・ごとくは確実に取り付ける。

⚠注意

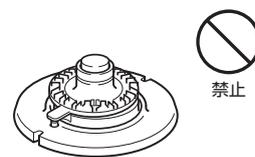
- ごとくが傾いたり、バーナーキャップの取り付け忘れやななめにセットすると、炎がもぐりこんだり、異常燃焼による火災や機器焼損の原因になります。



バーナーキャップの浮き



ごとくの傾き



バーナーキャップの裏返し

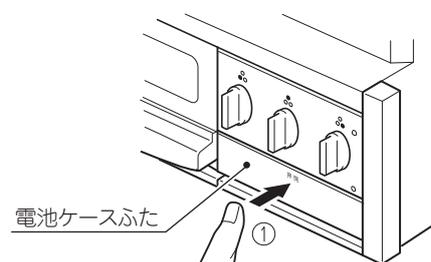
8. 乾電池の取り付け

- 詳しくは、取扱説明書を参照してください。

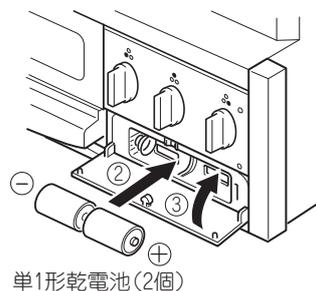
図13

- 取扱説明書に従って、同梱してある単1形乾電池2個を電池ケースに取り付けてください。
- ① 電池ケースふたの「押開」付近を押して開いてください。
 - ② 単1形乾電池（1.5V）2個を図のように正しくはめ込んでください。
 - ③ 電池ケースふたを元に戻してください。

図13



電池ケースふたの「押開」付近を指で押します。押した指を離すと電池ケースふたが開きます。



単1形乾電池(2個)

9. ガス配管接続・ガス配管工事

- **4** **ガス配管工事・ガス配管接続工事** を参照して、ガス配管接続およびガス配管工事を行ってください。
- 必ず、ガス漏れ検査を行ってください。



7

設置工事後の点検確認

の項目に進んでください

6 コンロとオープンのセットでの設置

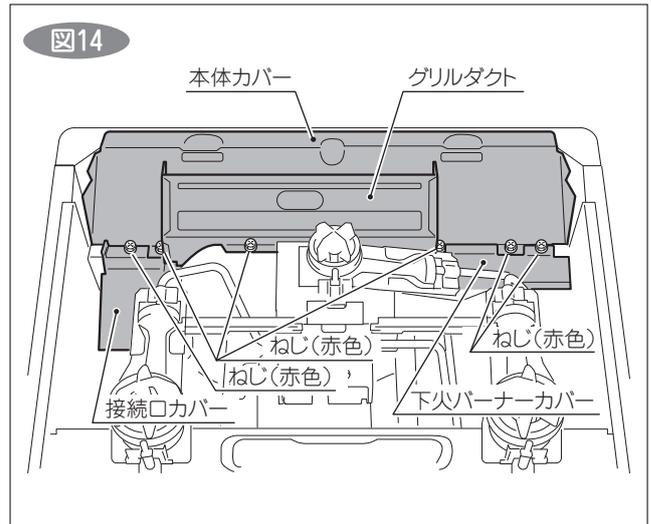
※オープンとセットで設置する場合、オープンに同梱されている「設置工事説明書」を参照し、トッププレートから後面の可燃物との距離を確認し、コンロとオープン両方満足する距離を確保して、設置してください。

※対応オープンは、RBR-S14E-Wとなります。詳しくは、お買い上げの販売店か、もよりの当社にお問い合わせください。

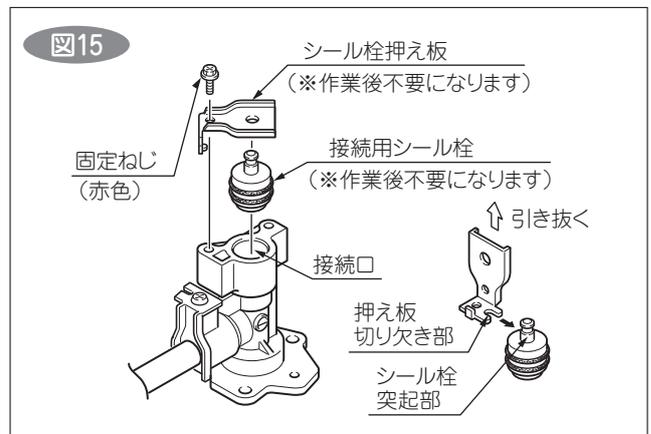
※新設置コンロは工場出荷時、コンロ単品での設置仕様になっております。これをオープンと接続できる仕様に変更する必要があります。

1. 部品の取りはずし

- ① グリルとびらを取りはずす。
(P9 図1 を参照してください)
 - ② グリルダクトを取りはずす。
 - 固定ねじ(赤色) 3本をはずして、グリルダクトを取りはずしてください。 図14
 - ③ 本体カバー、接続口カバー、下火バーナーカバーを取りはずす。
 - 固定ねじ(赤色) 3本をはずして取りはずしてください。 図14
- ※下火バーナーカバーは再び使用します。



- ④ コンロ側接続口の接続用シール栓を取りはずす。 図15
 - 本体内左後部にあるコンロ側接続口の固定ねじ(赤色) 1本をはずす。(固定ねじは再び使用します)
 - シール栓押え板を回転させてから、取り出したのちに、接続用シール栓の突起部をペンチなどではさんで、引き抜いてください。
 - 工具がない場合は、シール栓の突起部にシール栓押え板の切り欠き部を引っかけて、抜いてください。



⚠️ 注意

■コンロを単独設置する場合は、接続用シール栓をはずさない



ガス漏れの原因になります。

■底シール栓、底シール栓押え板が確実にハマっていることを確認する



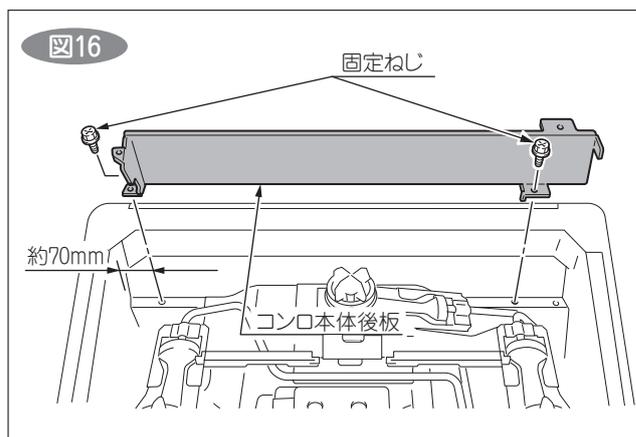
●確実にハマっていないとガス漏れの原因になります。

■底シール栓押え板の固定ねじ(赤色)がゆるんでいないことを確認する

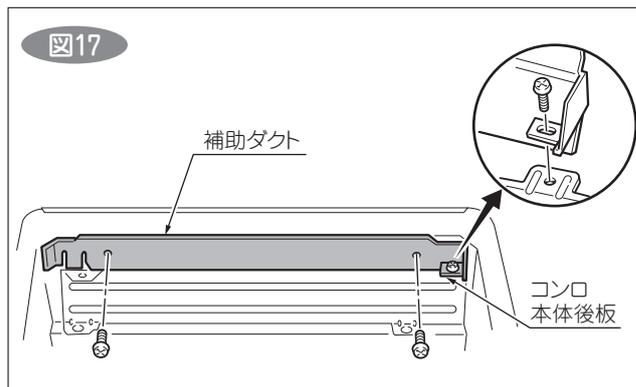
●固定ねじ(赤色)がゆるんでいると底シール栓押え板がはずれて、底シール栓が抜け落ち、ガス漏れの原因になります。

2. 部品の取り付け

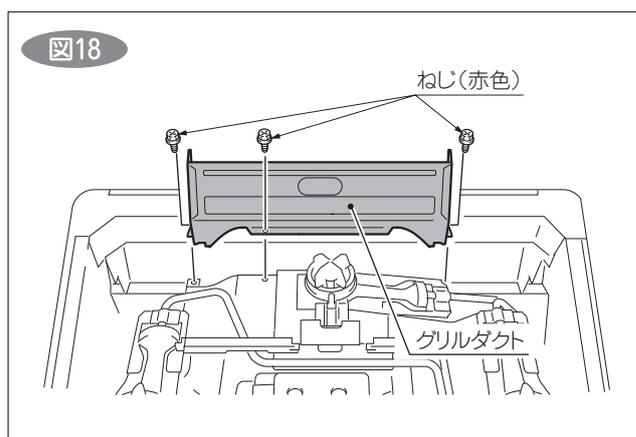
- ① コンロ本体後板を取り付ける。 **図16**
- オープンに同梱してあるコンロ本体後板を固定ねじ2本で本体後部、右側の方に取り付けてください。



- ② 補助ダクトを取り付ける。 **図17**
- オープンに同梱してある補助ダクトを本体上部枠後部に手前から固定ねじ2本で取り付けてください。
 - コンロ本体後板右側に固定ねじ1本で補助ダクトを取り付ける。



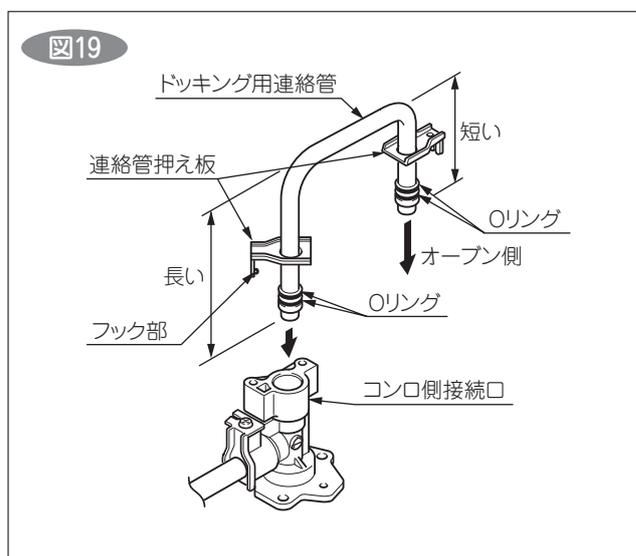
- ③ グリルダクトを取り付ける。 **図18**
- **図14** で取りはずした、グリルダクトを固定ねじ(赤色)3本で取り付けてください。



3. ドッキング用連絡管の取り付け

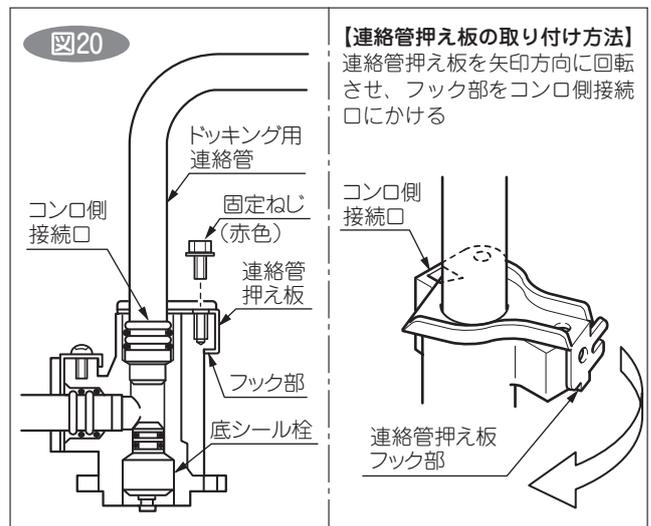
※ドッキング用連絡管の取り付けは、コンロをオープンに組み込んだ後での作業も可能です。

- ① ドッキング用連絡管を取り付ける。 **図19**
- ビルトインオープンに同梱してあるドッキング用連絡管の長い方をコンロ側接続口に、確実に奥まで挿入する。



② 連絡管押え板を取り付ける。 **図20**

- ドッキング用連絡管に付いている連絡管押え板を回転させ、フック部がコンロ側接続口にかかるようにして、 **図15** ではずした固定ねじ（赤色）1本で確実に取り付けてください。（取り付け位置は2箇所ありますが、どちらでも取り付けできます）
- 連絡管押え板が回転できずに、浮き上がるときは連絡管を確実に奥まで押し込んでください。



【連絡管押え板の取り付け方法】
連絡管押え板を矢印方向に回転させ、フック部をコンロ側接続口にかける

⚠ 注意

■ **ドッキング用連絡管にOリングが4個付いていることと、Oリングに傷がついていないことを確認する**



- Oリングの数が不足していたり、傷がついているとガス漏れの原因になります。

■ **Oリング部のグリスをふき取らない。また、ガス用シール剤を塗布しない**



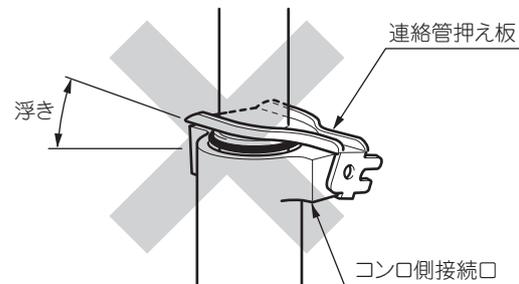
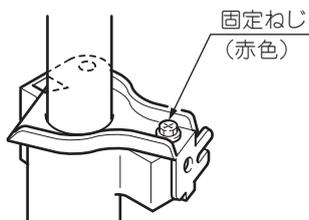
- グリスをふき取ったり、ガス用シール剤を塗布すると、ガス漏れの原因になります。

■ **連絡管押え板が浮いていないか確認する**

■ **固定ねじが確実に取り付けられているか確認する**



- 固定ねじ（赤色）が取り付けがなかったり、ゆるんでいたりとすると、ガス漏れの原因になります。



4. コンロの組み込み前の作業

① ビルトインオープンの設置作業

- ビルトインオープンに同梱されている「設置工事説明書」を参照して設置してください。
- オープンの接続用シール栓をはずしてください。

5. コンロの組み込み

① コンロを組み込む。

- 設置時には必ずコンロの施工取っ手を持って作業を行ってください。 **図21**
- 前面を先に挿入し、オープン部の排気ボックスに乗り上げないように注意しながら、ドッキング用連絡管の管端を、オープンの接続口に合わせて挿入し、コンロをオープンに取り付けます。

図21

- ドッキング用連絡管をオープンの接続口に最後までもう一度押し込んでください。 **図23**

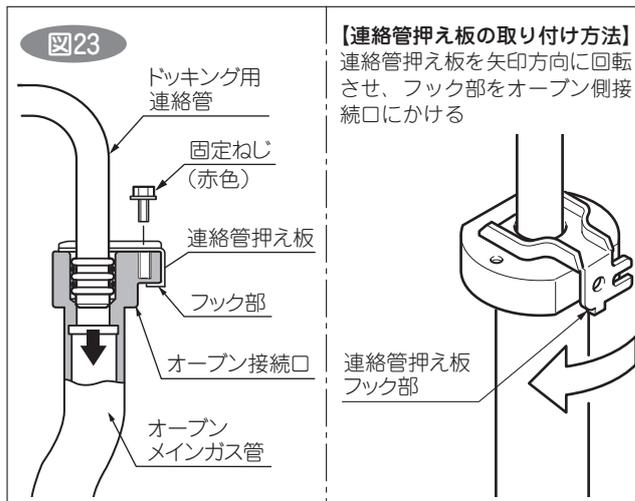
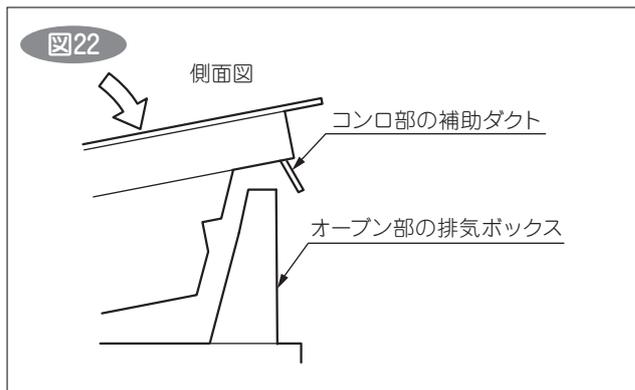
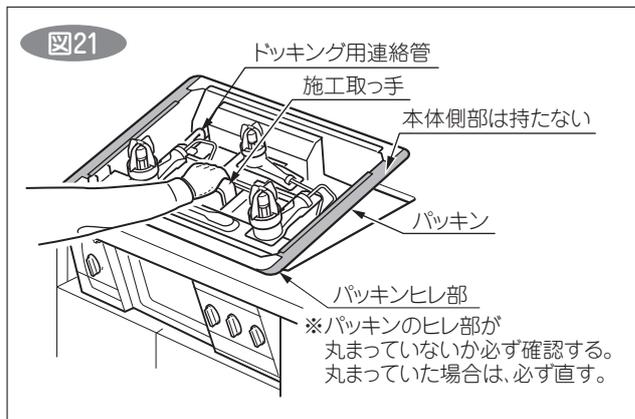
※コンロ部の補助ダクトが、オープン部の排気ボックスに乗り上げていないか確認してください。

図22

② 連絡管押え板を取り付ける。

図23

- ドッキング用連絡管についているオープン側の連絡管押え板を回転させ、フック部がオープン側接続口にかかるようにして、オープン側接続口から取りはずした固定ねじ（赤色）1本で**確実に**取り付けてください。
 - 連絡管押え板が回転できずに、浮き上がるときは連絡管を奥まで押し込んでください。
- ※オープン側接続口に届かない場合は、オープンに同梱されている「設置工事説明書」を参照し、オープンの高さ調節をして、**確実に**接続してください。



⚠️ 注意

■ Oリングに傷をつけない

ガス漏れの原因になります。



■ Oリング部のグリスをふき取らない。また、ガス用シール剤を塗布しない

- グリスをふき取ったり、ガス用シール剤を塗布すると、ガス漏れの原因になります。

■ Oリングが付いていることを確認する



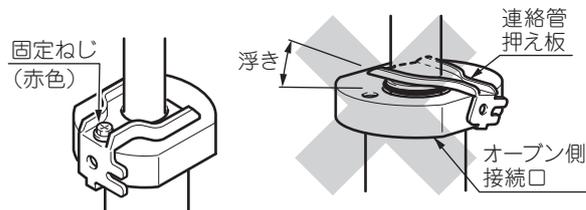
■ ドッキング用連絡管の接続は、確実に

■ 連絡管押え板が浮いていないか確認する



■ 固定ねじが確実に取り付けられているか確認する

- 固定ねじ（赤色）が取り付けでなかったり、ゆるんでいたりとすると、ガス漏れの原因になります。



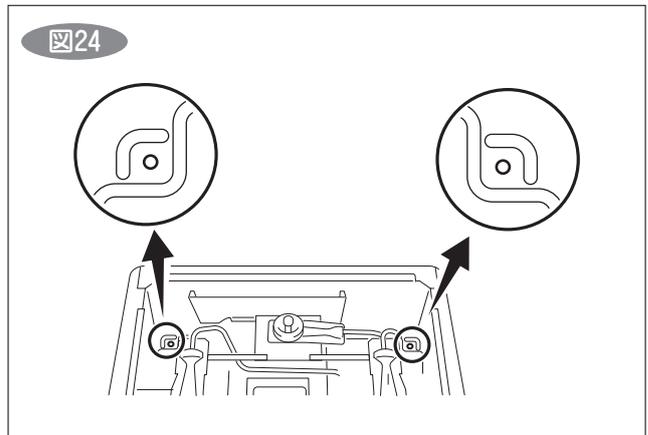
6. 下火カバー・グリルとびら・エンドピースの取り付け

※コンロ単独設置の場合の P10 図5 図6 を参照して、取り付けてください。

7. 機器の固定

- ① コンロ部とオープン部を固定する。 図24
 - コンロ部の本体固定用穴とオープン部の本体固定用ねじ穴を合わせてください。また、コンロ部の前面とオープン部の前面が合っているか確認してください。
 - オープンに同梱してある本体固定ねじ(M5ねじ(赤色)) 2本で固定します。
- ② ワークトップに固定する。
※コンロ単独設置の場合の P11 図7 を参照して、止めねじ4本で取り付けてください。

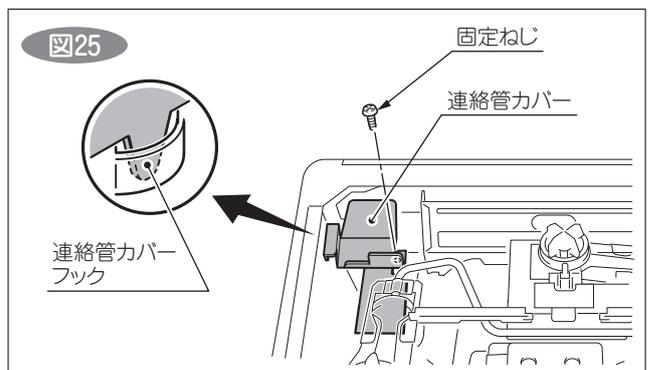
※オープンに同梱されている「設置工事説明書」を参照して、オープンを固定してください。



8. 連絡管カバーの取り付け

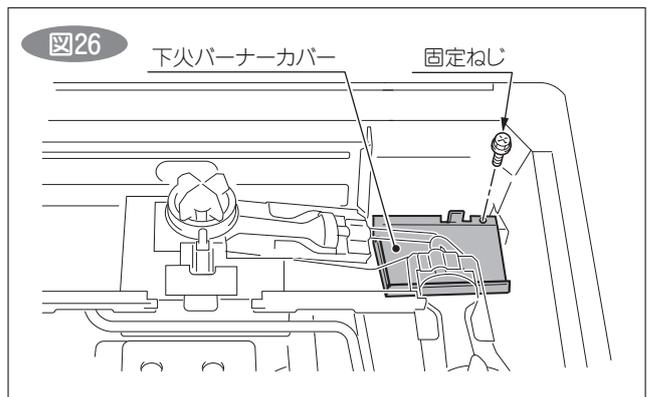
- オープンに同梱されている連絡管カバーのフックをコンロ本体の溝に引っ掛け、もう一方は、コンロ本体後板の左側に、固定ねじ1本で固定します。

図25



9. 下火バーナーカバーの取り付け

- P14 図14 にて取りはずした下火バーナーカバーを 図14 ではずした固定ねじ(赤色) 1本で固定します。 図26



10. 部品の取り付け

- トッププレート・排気口カバー・ごとく・バーナーキャップ・乾電池などを取り付けます。
- ※ 5 コンロの単独設置 P11~13を参照して、取り付けてください。

11. ガス配管接続・ガス配管工事

- ※オープンに同梱されている「設置工事説明書」を参照して、ガス配管接続およびガス配管工事を行ってください。
- ※必ず、ガス漏れ検査を行ってください。

7 設置工事後の点検確認

●チェックリストに基づいて確認してください。

点検項目	点検内容	参照項目	チェック	
機器およびその周辺	ガス種	使用するガス種に適合しているか。(銘板確認)	1	
	可燃物との離隔距離	可燃物との離隔距離、火災予防上の措置は十分か。	1	
		オープンとセットで設置する場合、オープンの設置工事説明書で離隔距離を確認したか。		
	水平設置	水平にセットされているか。	1	
	安定設置	ガタツキはないか。	1	
換気設備	十分換気できる場所に設置されているか。	1		
キャビネット	キャビネットに背板があるか(機器後方に穴があいていないか)	1		
ガス配管接続工事	ガス漏れはないか。	4		
ラベル貼付	接続員の施工者ラベルおよび連絡先のステッカーを貼付したか。			
付属部品	調理用付属品は同梱されているか。また正しく取り付けられているか。	3		
その他	グリル、オープン庫内に同梱物が残っていないか。			

8 試点火および試運転

① 試点火および試運転

●正しく設置工事されていることを確認してからガス栓(ねじガス栓)を開き取扱説明書に基づき、試運転を行ってください。

② 試運転終了後の処置

- 試運転終了後長期間使用しない場合は、ガス栓(ねじガス栓)を閉め、乾電池を取りはずしてください。また、オープンを設置した場合には、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 魚としてはグリル庫内に保管せずにお客様にお渡しするか、トッププレート中央部に置いてください。

③ お客様への説明

- 必ず取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 必ず取扱説明書の保証書に必要事項を記入のうえ、保証内容を説明してください。
- 取扱説明書、設置工事説明書の保管のお願いをしてください。

